

令和7年7月12日（土）午後2時から 城端小学校
17日（木）午後7時から 城端さくら保育園

城端地域の学校統合検討案説明会

南砺市教育委員会

1 開会

2 教育長挨拶

3 統合検討案説明

- (1) 南砺市立学校のあり方に関する提言について 資料1 1 ページ
- (2) 学校統合検討案について 資料2 2～7 ページ
検討委員会の経過、統合パターン、児童生徒数
- (3) 義務教育学校について 資料3 8 ページ

4 質疑応答、ご意見など

5 今後の流れについて

6 閉会

1. 「南砺市立学校のあり方に関する提言書」について

- ◆想定以上の速さで人口減少が進み、学校を取り巻く環境も急速に変化したことから、令和4年4月に「第Ⅱ期南砺市立学校のあり方検討委員会」を設置
- ◆令和6年1月に、同検討委員会から「南砺市立学校のあり方に関する提言書」が提出される。

◆提言のポイント

※「南砺市立学校のあり方に関する提言書」の全文は、右のQRコードからご覧になれます。



①学校のあり方の基本的な考え方について

- ・現在の教育環境をできるだけ維持しながら、児童生徒数の減少に伴い、市立学校を統合していく方向とする。ただし、小学校の機能は7地域にそれぞれ残す。
- ・学校の統合については、次の2つの方法を選択できるようにする。
 - 1) 同一校区内での小学校と中学校を統合し、義務教育学校とする。
 - 2) 小学校を残し、中学校については、隣接する校区の中学校と統合する。

②学校統合の検討方法・時期について

- ・地域ごとの学校統合を協議する組織として、『地域学校統合検討委員会』を設置する。
 - ・協議を開始する時期については、校舎に収容できる人数を考慮しながら、中学校に単級が断続的に生じる5年前を目途とする。
- ただし、地域が協議を開始する時期の前倒しを望む場合はこの限りではない。

城端地域では、R11年に中学校で単級が発生する見通し。このことを踏まえ、「城端地域学校のあり方検討委員会」を設置

2. これまでの城端地域学校のあり方検討委員会の経過

①第1回検討委員会（令和7年2月25日）

- ・城端地域の学校のあり方について検討を進めることで合意しました。

②第2回検討委員会（令和7年5月21日）

- ・学校のあり方の検討に当たり、「城端小学校と城端中学校の両方を、今までどおり維持する」という選択肢は持たないということを確認しました。
- ・学校のあり方案については、以下の2案に絞って検討を進めることで合意しました。

＜パターン1＞	＜パターン2＞
・城端小学校はそのまま ・城端中学校は他地域の中学校と統合	・城端小学校と城端中学校を統合し、どちらかの校舎に新しく義務教育学校を設置

【各パターンを検討する上での共通事項】

- 1) 校舎は現行の校舎を用いることを基本とし、新築・増築は行わない。
- 2) 統合等に要する改修等の経費は検討材料としない。



※城端地域学校のあり方検討委員会の会議録等は、
右のQRコードからご覧になれます。

3. 検討委員会です承された2つのパターン（比較表）

		＜パターン1＞	＜パターン2＞	
概要		・城端小学校はそのまま ・城端中学校は他地域の中学校と統合	・城端小学校と城端中学校を統合し、どちらかの校舎に新しく義務教育学校を設置	
学級数 ※特別支援級を除く	小学校・前期課程	R12まで：1～2学級 R13以降：全学年単級 ※複式学級になる見通しはない。		
	中学校・後期課程	福光地域と統合する場合（提言書の内容に沿って「隣接した校区」と統合する場合）	R10まで	2学級
		R10まで		
		R11～R15		
		R16～R17		1～2学級
各パターンの特徴		R18		
	※井波地域・福野地域と統合する場合の学級数は、資料6,7ページを参照			
	・中学校は複数学級を維持できる見通し ・中学校は通学区域が広域になる。		・9年間を見据えたカリキュラムの編成が可能 ・通学区域は現在と同じ。	
その他		・統合先の中学校により、統合時期が異なる可能性がある。	・収容人数の関係上、どちらの校舎を利用するかにより、統合時期が異なる。 ・城端小学校を利用する場合、R16年度以降に設置可能となる見込み ・城端中学校を利用する場合、R12年度以降に設置可能となる見込み	

令和7年4月1日現在（人）

学級編制基準 (富山県)	小学校	35名定員
	中学校	35名定員(予定)

塗りつぶしなしが2クラス

黄色塗りつぶしが単級

※中学校は、R10年度以降は1クラス35名が有力です。

城端地域

※通常学級の人数のみ

年齢	0才	1才	2才	3才	4才	5才	6才	7才	8才	9才	10才	11才	12才	13才	14才
学年				年少	年中	年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
R7	19	19	22	33	33	35	40	42	31	39	46	48	55	49	56
R8		19	19	22	33	33	35	40	42	31	39	46	48	55	49
R9			19	19	22	33	33	35	40	42	31	39	46	48	55
R10				19	19	22	33	33	35	40	42	31	39	46	48
R11					19	19	22	33	33	35	40	42	31	39	46
R12						19	19	22	33	33	35	40	42	31	39
R13							19	19	22	22	33	35	40	42	31
R14								19	19	22	33	33	35	40	42
R15									19	19	22	33	33	35	40
R16										19	19	22	33	33	35
R17											19	19	22	33	33
R18												19	19	22	33

小学校全学年単級

中学校全学年単級

令和7年4月1日現在（人）

塗りつぶしなしが2クラス

緑色塗りつぶしが3クラス

橙色りつぶしが4クラス

学級編制基準	小学校	35名定員
(富山県)	中学校	35名定員(予定)

※中学校は、R10年度以降は1クラス35名が有力です。

福光地域

※通常学級の人数のみ

年齢	0才	1才	2才	3才	4才	5才	6才	7才	8才	9才	10才	11才	12才	13才	14才
学年	—	—	—	年少	年中	年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
R7	45	54	74	61	76	71	81	81	96	101	88	106	105	106	108
R8		45	54	74	61	76	71	81	81	96	101	88	106	105	106
R9			45	54	74	61	76	71	81	81	96	101	88	106	105
R10				45	54	74	61	76	71	81	81	96	101	88	106
R11					45	54	74	61	76	71	81	81	96	101	88
R12						45	54	74	61	76	71	81	81	96	101
R13							45	54	74	61	76	71	81	81	96
R14								45	54	74	61	76	71	81	81
R15									45	54	74	61	76	71	81
R16										45	54	74	61	76	71
R17											45	54	74	61	76
R18												45	54	74	61

令和7年4月1日現在（人）

塗りつぶしなしが2クラス

緑色塗りつぶしが3クラス

橙色りつぶしが4クラス

水色りつぶしが5クラス

学級編制基準	小学校	35名定員
(富山県)	中学校	35名定員(予定)

※中学校は、R10年度以降は1クラス35名が有力です。

城端地域＋福光地域

※通常学級の人数のみ

年齢	0才	1才	2才	3才	4才	5才	6才	7才	8才	9才	10才	11才	12才	13才	14才
学年	—	—	—	年少	年中	年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
R7	64	73	96	94	109	106	121	123	127	140	134	154	160	155	164
R8		64	73	96	94	109	106	121	123	127	140	134	154	160	155
R9			64	73	96	94	109	106	121	123	127	140	134	154	160
R10				64	73	96	94	109	106	121	123	127	140	134	154
R11					64	73	96	94	109	106	121	123	127	140	134
R12						64	73	96	94	109	106	121	123	127	140
R13							64	73	96	94	109	106	121	123	127
R14								64	73	96	94	109	106	121	123
R15									64	73	96	94	109	106	121
R16										64	73	96	94	109	106
R17											64	73	96	94	109
R18												64	73	96	94

令和7年4月1日現在（人）

塗りつぶしなしが2クラス

黄色塗りつぶしが単級

学級編制基準	小学校	35名定員
（富山県）	中学校	35名定員(予定)

※中学校は、R10年度以降は1クラス35名が有力です。

井波地域

※通常学級の人数のみ

年齢	0才	1才	2才	3才	4才	5才	6才	7才	8才	9才	10才	11才	12才	13才	14才
学年	－	－	－	年少	年中	年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
R7	34	34	44	43	39	41	47	50	41	54	58	43	38	47	60
R8		34	34	44	43	39	41	47	50	41	54	58	43	38	47
R9			34	34	44	43	39	41	47	50	41	54	58	43	38
R10				34	34	44	43	39	41	47	50	41	54	58	43
R11					34	34	44	43	39	41	47	50	41	54	58
R12						34	34	44	43	39	41	47	50	41	54
R13							34	34	44	43	39	41	47	50	41
R14								34	34	44	43	39	41	47	50
R15									34	34	44	43	39	41	47
R16										34	34	44	43	39	41
R17											34	34	44	43	39
R18												34	34	44	43

令和7年4月1日現在（人）

塗りつぶしなしが2クラス

緑色塗りつぶしが3クラス

橙色りつぶしが4クラス

学級編制基準	小学校	35名定員
（富山県）	中学校	35名定員(予定)

※中学校は、R10年度以降は1クラス35名が有力です。

城端地域＋井波地域

※通常学級の人数のみ

年齢	0才	1才	2才	3才	4才	5才	6才	7才	8才	9才	10才	11才	12才	13才	14才
学年	－	－	－	年少	年中	年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
R7	53	53	66	76	72	76	87	92	72	93	104	91	93	96	116
R8		53	53	66	76	72	76	87	92	72	93	104	91	93	96
R9			53	53	66	76	72	76	87	92	72	93	104	91	93
R10				53	53	66	76	72	76	87	92	72	93	104	91
R11					53	53	66	76	72	76	87	92	72	93	104
R12						53	53	66	76	72	76	87	92	72	93
R13							53	53	66	76	72	76	87	92	72
R14								53	53	66	76	72	76	87	92
R15									53	53	66	76	72	76	87
R16										53	53	66	76	72	76
R17											53	53	66	76	72
R18												53	53	66	76

令和7年4月1日現在（人）

塗りつぶしなしが2クラス

緑色塗りつぶしが3クラス

橙色りつぶしが4クラス

学級編制基準	小学校	35名定員
(富山県)	中学校	35名定員(予定)

※中学校は、R10年度以降は1クラス35名が有力です。

福野地域

※通常学級の人数のみ

年齢	0才	1才	2才	3才	4才	5才	6才	7才	8才	9才	10才	11才	12才	13才	14才
学年	－	－	－	年少	年中	年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
R7	56	71	78	81	86	88	93	94	95	97	101	109	101	94	107
R8		56	71	78	81	86	88	93	94	95	97	101	109	101	94
R9			56	71	78	81	86	88	93	94	95	97	101	109	101
R10				56	71	78	81	86	88	93	94	95	97	101	109
R11					56	71	78	81	86	88	93	94	95	97	101
R12						56	71	78	81	86	88	93	94	95	97
R13							56	71	78	81	86	88	93	94	95
R14								56	71	78	81	86	88	93	94
R15									56	71	78	81	86	88	93
R16										56	71	78	81	86	88
R17											56	71	78	81	86
R18												56	71	78	81

令和7年4月1日現在（人）

塗りつぶしなしが2クラス

緑色塗りつぶしが3クラス

橙色りつぶしが4クラス

水色りつぶしが5クラス

学級編制基準	小学校	35名定員
(富山県)	中学校	35名定員(予定)

※中学校は、R10年度以降は1クラス35名が有力です。

城端地域＋福野地域

※通常学級の人数のみ

年齢	0才	1才	2才	3才	4才	5才	6才	7才	8才	9才	10才	11才	12才	13才	14才
学年	－	－	－	年少	年中	年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
R7	75	90	100	114	119	123	133	136	126	136	147	157	156	143	163
R8		75	90	100	114	119	123	133	136	126	136	147	157	156	143
R9			75	90	100	114	119	123	133	136	126	136	147	157	156
R10				75	90	100	114	119	123	133	136	126	136	147	157
R11					75	90	100	114	119	123	133	136	126	136	147
R12						75	90	100	114	119	123	133	136	126	136
R13							75	90	100	114	119	123	133	136	126
R14								75	90	100	114	119	123	133	136
R15									75	90	100	114	119	123	133
R16										75	90	100	114	119	123
R17											75	90	100	114	119
R18												75	90	100	114

義務教育学校のメリット・デメリット等について

小学校と中学校の義務教育を9年間一貫して行う学校である義務教育学校は、一般論として、下記のメリット・デメリットが挙げられます。

メリット	デメリット
①自由度の高いカリキュラムを設定できる ・学年の区切りを柔軟に設定することができるため、中学校の学習内容を前倒しして学ばせたり、実施学年を入れ替えたりすることも可能になる。 ・学力向上の成果が期待されている。 ②教員同士の情報交換が容易になる (一人の校長、一つの教職員組織となり) ・児童生徒の学習状況や特性などが共有されやすく、適切できめ細やかな対応をとることができる。 ・学習面だけでなく、いじめ問題など生活面においても効果が期待できる。 ③中1ギャップの解消 ・小学校から中学校に上がる時、学習面や環境面、人間関係等に大きな変化が訪れるため、学校に馴染めずに不登校になってしまう子どもがいる。 ・日頃から中学生と触れ合えたり、学力のカリキュラムがひと続きになっていたりするため、スムーズに後期課程(中学校段階)へと移行することができる。 ④小学生と中学生に交流が生まれる ・小学生は中学生が行っている勉強や学校行事に興味を持つようになり、中学生はリーダーシップを発揮するようになる。 ⑤義務教育学校教員の配置(加配) ・学校段階間の連携を円滑に行うため教員を1名配置。(校長1名減のため増減なし)	①人間関係の固定化 ・9年間同じ学校にいるため、人間関係が固定化される。(1学年単級の場合) ・中1ギャップの解消により、中学生の不登校率を下げる効果があるとされているが、人間関係に悩んでいる児童生徒にとっては窮屈な学校生活となる。(いじめ問題対策など) ②転入・転出する児童生徒への対応 ・独自のカリキュラムに対応するための支援が必要となる。(南砺市では転入・転出に配慮したカリキュラム) ③【教員】小中両方の教員免許を取得する必要がある ※当分の間は小学校免許状で前期課程、中学校免許状で後期課程の指導が可能 ・教員側のデメリットとして、両方の教員免許が必要となる。実際に指導するための研修の充実も課題とされている。 留意すべき事項(懸念される事項) ①他の小学校、中学校との間で学校間格差が生じないようにする配慮が必要 ②学校の統廃合のために安易に利用される懸念 ・開設にあたって、きちんとした小中一貫教育のカリキュラムが用意されているか ・保護者や地域住民の理解が得られているかがポイントになる。